身近な聖人聖ホセマ リア

出エジプト記(33・11) は モーセについて、神は『その 友に話すように、顔と顔を合 わせてモーセに語られた』と 書いています。慎みのベール によって小さなしるしが隠さ れているとはいえ、『友がそ の友と話すように』という言 葉を聖ホセマリアに当てはめ る十分な根拠があると思われ ます。そうすることを通し て、世界の扉を開いて神が現 存なさり、お働きになり、全 てをお変えになるからです。 (ラツィンガー枢機卿)

聖ホセマリア・エスクリバー・デ・バラゲルは、一九〇二年一月九日スペインのバルバストロのキリスペインの変庭に生まれました。 幼ずの家庭に生まれました。 からではいるを経験しました。 わらを経験しましたが続いて死産したのの事業も倒ったの後父親のの事業も関うないです。 さい 本事の にあっぐことはなかった おいま です。

一九二五年三月二十八日、二十三歳のとき、サラゴサで司祭に叙階されました。初ミサは、四カ月前にこの世を去ったばかりの父親の霊魂ために捧げました。この日以来、聖体祭儀が聖ホセマリアの生活の中心となり、司牧活動すべての原動力となったのでした。

一九二七年春、マドリードに移ります。貧しい人や見捨てられた人たちの世話をする慈善施設においてばまる司牧活動を繰り広げまをいるとと、主なる神は聖ホにオプス・ディをお見せにオプス・ディをお見せにオプス・ディをお見せによったのです。一九二八年十月二日、数日間に亘っての黙想会の中での出来事でした。

一九四六年、聖ホセマリアは住まいをローマに移します。それは、オプス・デイの普遍的な性格の結果であり、ローマ教皇との一致の表明でもありました。永遠の都ローマから、熱烈に愛する教会に

役立つためのオプス・デイの使徒職 を世界中に広げるために、懸命に働 きました。

一九七五年六月二十六日正午に帰 天。二〇〇二年十月六日、福者ヨハ ネ・パウロ二世教皇によって列聖さ れました。その遺体はローマにある 〈平和の聖マリア・属人区長教会〉 に安置されています。帰天以来、ホ セマリアの執り成しのおかげで得た 恵みに関する報告が、オプス・デイ 本部に届き続けています。回心やキ リスト教信仰をしっかり生きるとい う決意、各種の治癒、物的な恵みな どです。聖ホセマリアの生涯とその 教えは無数の人々にとって霊感と助 けを与えるものとなりました。多く の人々が、自らの信仰を強めるた め、友のような聖なる司祭の取次ぎ を求め続けています。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/mijikana-seijin/ (2025/11/21)